

受賞者 喜びの声

道展大賞に紙谷重行さん

<第二部 1席 国土交通大臣賞・道展大賞>



夜の大橋と工場群

「恒に志し在り 恒に錬在り 恒に識在り 白川 静
 (つねにこころざしあり つねにれんあり つねにしきあり)」
 [識は物事を見分けて知る～自分の方向が正しいか恒に見分けることが大事である。注 白川]

この言葉に導かれて精進してきたつもりでありましたが、入会10年目の節目で大岸壁に打ち当たり、どのように撮影したらよいのか、写真とは何か全くわからなくなり、昨年は挫折の1年でした。

今年度はすべて落選と妙な確信がありました、1点不満が残る夜の写真が目に残ることになり、先生方のお陰で写真を断念するのを免れました。

息を吹き返したのもつかの間、大賞の後は道展落選のジレンマがあるとのことで、これをどの様に受け止めればよいのか。悲観主義の小生には喜んで暇は無いか、小生にとっては運とは、冠をかぶって一生車を引き回す、苦役を課せられているギリシア神話のシンプスの運命のようなものか。



<第一部 1席 文部科学大臣賞 小室博子さん>



宙に舞う

念願でした1席入賞の知らせを戴いたのは、東日本大震災の2日前でした。喜びを100%表すことが出来ず、心の中で密かに噛みしめる毎日です。これまで自然相手に写真を撮ることもありましたが、改めて自然と向き合う厳しさや姿勢が問われます。

さて、友人に誘われて始めた写真生活も約20年たちました。

入賞は、3月に定年を迎えた仕事一筋の人生へのご褒美と考えています。スキー人口が減少しスキー場での大きな競技やイベントを写真に撮る機会が少なくなってきています。その中で、入賞作品は、雪祭りイベントの一つスノーボード内とセッションでのワンショットです。

ブレを押さえるためにISO感度を上げて、人物よ止まれと念じてシャッターを切りました。2人が画面に入るのも難しいのですが、3人が入るタイミングはワンチャンスで本当にラッキーでした。これからも、心を動かされる被写体に出会い、その感動を伝えることが出来る写真を撮りたいと考えています。

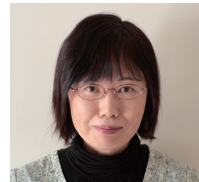


<第一部 3席 村上和子さん>



初冬

この度は第1部で3席に入賞することができ大変感激しております。この作品は、初冬の雪が降ったある日、オンドリを撮ろうとして出かけた中島公園での一コマです。肝心のオンドリがなかなか出てこず、ふと振り返ると氷の隙間をかものつがいが滑るように泳いでいた瞬間を夢中でシャッターを押しました。これからも一瞬の出会いを大切に撮影していきたいと思っております。



<第一部 3席 原 禎子さん>



雪中演奏

春は花、秋は紅葉、冬は雪等々季節はよどみなく繰り返されるのに、全く同じシーンに巡り合うことは決してない。それ故にこそ、新鮮な眼と感動を失わずにカメラとかかわってゆきたいと願うのだが、いつの間にか マンネリに陥り思い悩むことが多い。

この度三席を戴いた、吹雪の中のワンショットは、スナップが苦手と逃げ腰の私を誘い出してくれた写友のお陰、良き指導者、良き先輩に恵まれ、楽しみつつ学べる幸せに唯唯感謝あるのみ……。

